

## 吹田市立博物館 夏季展示の取り組み「まもる自然・つくる環境」

伊藤忠征・藤田和則・金指弘・久次米滋夫 (吹田市立博物館夏季展示実行委員会)  
池田直子 (吹田市立博物館学芸員)

### はじめに

吹博(吹田市立博物館)では、平成21年より夏休みに市民が自然と環境をテーマとした展示を企画・運営しています。とくに、平成26～28年は「まもる自然・つくる環境」を共通テーマに展示企画を立てました。共生のひろばでは、この3年間の取り組み、特に今年の展示の内容を紹介しました。

### ■平成26年度夏季展示

#### 紫金山と釈迦ヶ池 —まもる自然・つくる環境—

吹博周辺にある紫金山公園と釈迦ヶ池は、さまざまな野鳥、昆虫、植物が生息する緑豊かな地域です。吹田市では都市化が急激に進み、緑が残る公園は多くありません。自然は守る努力をするとともに、どのような緑や生物を残して環境をつくっていくかという工夫も必要です。平成26年度は吹博周辺の豊かな自然を残す環境を紹介しました。



紫金山の生き物たち



吹田クワイ



イベント・ダンゴムシレース

### ■平成27年度夏季展示

#### まもる自然・つくる環境 —こんなのみつけたよ—

吹博に隣接する紫金山と釈迦ヶ池から、さらに対象地域を吹田市内全域に広げて、自然と環境をテーマに展示しました。I 吹田の地形・地質、II なにわの伝統野菜、III すいたのいきもの、で展示を構成しました。とくに「すいたのいきもの」では、生物の食性に着目し、緑の減少や草木の種類の交替が、それを食べる動物の生息可能な環境と密接につながっていることについて考える内容としました。



展示室を生き物たちのレストランに見立てて

■平成28年度夏季展示 まもる自然・つくる環境Ⅲ

どっちがどっち!? 一ちかくの自然をよくみてみようー

ハシブトガラスとハシボソガラスのような、身近な生き物で、よく似ているけれど種類が異なるものを取りあげ、どちらがどの種類か当ててもらおう展示にしました。この展示を通じて、①身近な自然環境に目を向けてもらうきっかけをつくる、②吹田のまち（自然環境）の特色や魅力を知ってもらう、③身の回りの環境はすべて関係し合っていることを知ってもらうことを目標にしました。「まもる自然・つくる環境」のしあげとして、吹田の自然や環境問題について考える機会となるよう取り組みました。



市内の小学4年生から募集した「自然はっけんシート」



エントランスの巨大タンポポ



どっちがどっち!?



吹田の街路樹



ハシボソガラスとハシブトガラス、アブラゼミとクマゼミ、カブトムシとクワガタ、セイヨウタンポポとカンサイタンポポなど、よく似ているけれど、違う生き物をクイズ形式で楽しめるようにしました。身近にいる生き物をよく観察してもらうきっかけになればと企画しました。

博物館入り口でセミのぬけがら集めを行いました。何度も持ってきてくれる子もいます。市民実行委員が、アブラゼミとクマゼミの鳴き声を聞かせたり、映像を見せたりして対応しました。



吹田クワイはなにわの伝統野菜の一つで、ヒメクワイ、マメクワイとも呼ばれます。昭和8年、植物学者牧野富太郎が来吹して、吹田クワイの調査をし、学名をつけました。夏季展示ではクワイの季節ではないので模型での展示でしたが、共生のひろばでは種芋を展示しました。吹田くわいは吹田市のイメージキャラクター「すいたん」のモチーフになっています。

おわりに

吹博の自然と環境をテーマとした夏季展示の観覧者やイベント参加者は、幼児から小学校低学年の子どもの親子連れが多いので、展示やイベントもわかりやすく楽しいものを心懸けています。平成29年度の夏季展示に向けて、1月に市民実行委員会を立ち上げました。都市化された吹田でも、まだまだ自然がのこされていること、のこしていくべきことを伝えるために、企画を練っています。ぜひ、吹博の夏季展示にお越し下さい。